

# しいは 詩羽のいる街

目から鱗

マンガ家を目指していた青年・飯塚陽生は、出版社に原稿を持ち込んで追いつかれない日々を送っていた。そんなある日ふと立ち寄った公園で、陽生は詩羽という女性に出会う。陽生がマンガ家として行き詰まっていることを詩羽に告げると、詩羽は突然、陽生を「一日デート」に誘った。そこで陽生が見たのは、家もお金も一切持たずに、「わらしべ」したり困っている人を助けたりするなど、人の役に立つことで生活している詩羽の姿だった。陽生はそんな詩羽の生き方に驚きつつも、街の人々に出会う中で一つの決心をする。

この作品は4つの章に分かれている。1章から順に冒頭で述べた陽生、自殺をしようとしていた少女、人を困らせることが生きがいの中年男性、そして街の外から詩羽を探しにやってきた女性の視点で語られ、彼らは詩羽と出会い、変わっていく。そしてこの4つの物語は独立しているのではなく密接にかかわりあい、最後には1つの物語になる。

この物語の魅力は、なんといってもヒロインの詩羽にある。詩羽は街の人々に親切にし、そのお返しで生活している。「人に親切にするのが仕事」だと詩羽は言う。そこに家やお金は必要ない。詩羽の親切とは、何げない会話の中から、街の誰が何を必要としているのかわかり、誰と誰を結びつけたいのかを考え、街に巨大な「詩羽ネットワーク」を築いていくことだ。それまでかかわりの無かった街の人々が、詩羽を中心にならされていく。そんな詩羽を見ていると、人と協力することでどんな問題も解決できそうな気がしてくる。

人はみんな、自分の人生を変える力を持っている。しかし多くの人が「変わるわけがない」と思い込み、現状に納得している。そんな人に、詩羽はより幸せになるための手助けをしてくれる。口先だけの精神論ではない、具体的なヒントを教えてくれる。ぜひこの本で、いつもの生き方を少し変えるだけで幸せになれる、ということを知ってほしい。



山本弘 著  
角川IGP  
単行本 1,890円  
文庫版 820円



## レアチーズ風 ヨーグルトケーキ

### 材料

(大きさの目安: 5cm×8cm)

プレーンヨーグルト 450g

マシュマロ 80g

ビスケット 5枚

### 作り方

① ザルの上にキッチンペーパーを敷き、ヨーグルトをのせて冷蔵庫で一晩水切りする。

② ラップを敷いた容器にビスケットを敷き詰める。①は室温に戻しておく。

③ マシュマロをレンジ(500W)で30秒加熱し、熱いうちに①と混ぜて型に流し込み、冷蔵庫で2時間冷やす。



### ☆注意

水切りすると200mlほどの水が出るので、深めの容器をザルの下に置きましょう。

はみだし  
すてーじ

クリスマス過ぎたと思ったらもうバレンタインですよ！  
⇒男子たちに貢ぐ季節になりましたね。3倍返して、なんて素敵な風習なんですよ！

(農・3 monlie)  
(義理とか関係ないよね♪；編)